

T.M.てん 通信～№25～

2021年9月19日

今年の中秋の名月は9月21日

身近な天体である月は、古くから人々に親しまれている身近な天体です。

とくに天保暦(旧暦)八月十五日の月は「中秋の名月」として有名で、お月見をする習慣があります。

2021年は9月21日が「中秋の名月」の日で、8年ぶりに満月と同じ日付になります。澄んだ夜空に浮かぶ真ん丸い名月を眺めてみましょう。

別紙にて、中秋の名月についてもう少し詳細な情報を記載していますので、ご確認下さい。

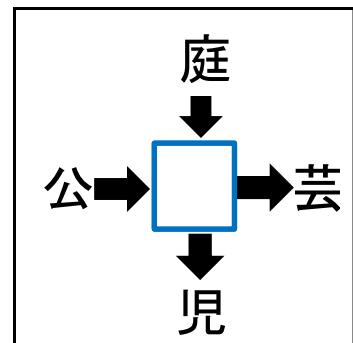
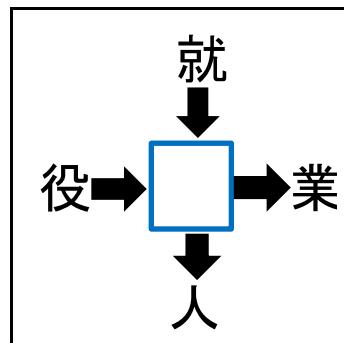
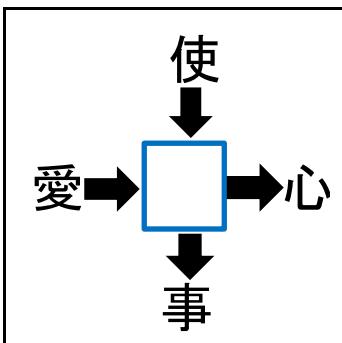
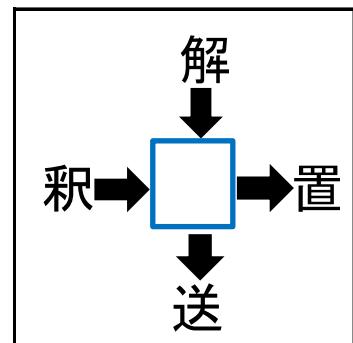
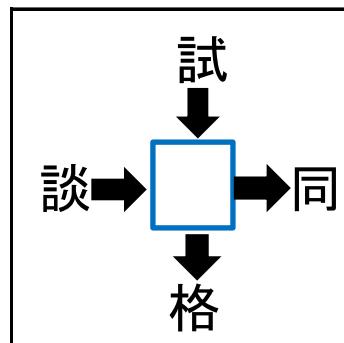
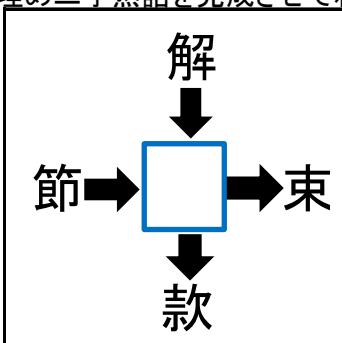


次は脳トレを楽しみましょう！

矢印に注意いてね。答えが解らなくても大丈夫。考えることが重要なのです。

誰かに聞く、辞書を引く、ネットで検索する等々、答えを見いだす方法を会得するのも脳トレです。

●穴埋め二字熟語を完成させてね♪



●ことわざ四択クイズ

陸に上がった【 ? 】

- A:海亀 B:河童 C:海兵 D:老人

答え

【 ? 】を売る

- A:時間 B:話し C:水 D:油

答え

【 ? 】は一日にして成らず

- A:テーマ B:パーマ C:ローマ D:キーマ

答え

例外のない【 ? 】はない

- A:例外 B:原則 C:規則 D:法律

答え

●画像なぞなぞ

問題 1 これは何？



答え:

問題 2 口に入るのは
いくつ？

$$\begin{array}{l} \text{中} + \text{口} = 36 \\ \text{要} - \text{女} = 8 \\ \text{内} + \text{人} = ? \end{array}$$

答え:

ヒント
中+口=串(クシ)で36

問題 3 これは何の
読み方？

子供
おおおおあ
| | | |
おひなくこ
大人

答え:

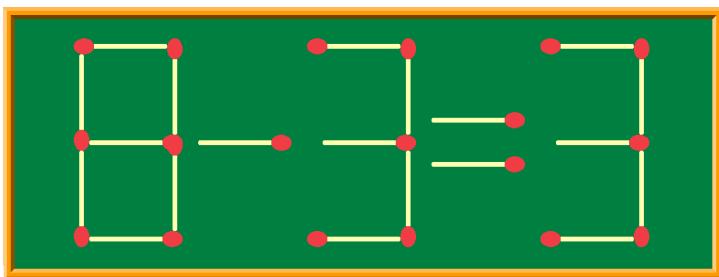
ヒント
あ=あかちゃん
な=なか

●マッチ棒クイズ

問題】間違ったマッチ棒の式があります。

2本だけ動かして正しい式を作りましょう！

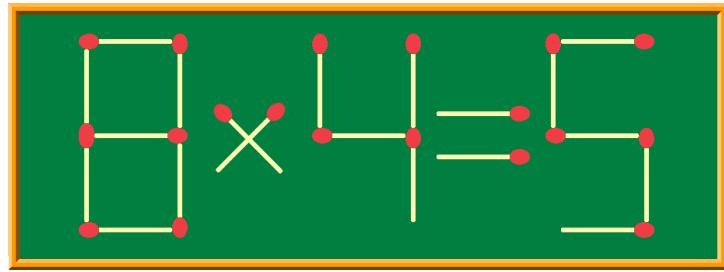
答え



問題】間違ったマッチ棒の式があります。

2本だけ動かして正しい式を作りましょう！

答え



答えは次回 10/13体操教室で。白板に貼っておきます。

以上

by:kiyotan

名月といえば秋

そもそも「中秋の名月」とはなんでしょう。

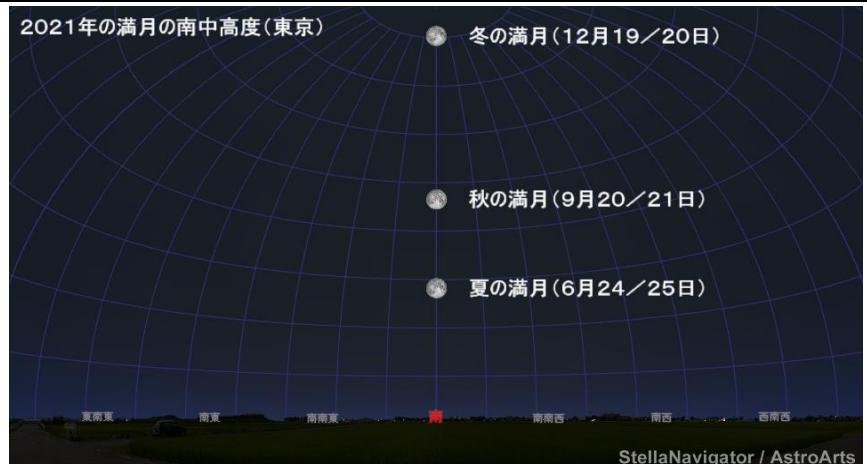
昔から、秋こそが月を見るのに良い季節とされていました。

その理由は、満月の高さと天気です。

夏の太陽は高く、冬は低いことはご存じでしょう。満月は地球から見て太陽の反対側にありますから、夏の満月は低く、冬は高くなります。つまり春か秋の満月が、ちょうど見上げるのに適した高さです。

春と秋とを比べると、「春がすみ」「秋晴れ」という言葉があるように、天気の良さでは断然秋。そこで、秋が月見のシーズンとなつたとされています。

その秋(七月～九月)の中で、ちょうど真ん中の日が「中秋」、八月十五日です。そのため、八月十五日の月を「中秋の名月」と呼んで愛でることにしたのです。ちなみに似た言葉の「仲秋」は「八月」を指します(七月は孟秋(初秋)、九月は季秋(晩秋))。



「中秋」八月十五日の決め方

「秋が七月～九月」「中秋の名月は八月十五日」というのは現在の暦ではなく、天保暦(いわゆる「旧暦」)による日付です。現在、正式に旧暦を発表する機関はありませんが、かつての法則と同様に太陽と月の動きを元にして旧暦を計算することは可能です。具体的には「秋分日(太陽が秋分点を通過する日)以前の、一番近い朔(新月)の日を1日目(旧暦八月一日)として、15日目を中秋とする」と決められます。

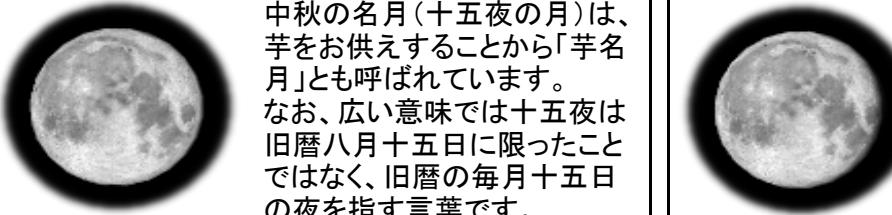
このようにして旧暦を決めると、現在の暦からおよそ1か月遅れになるので、中秋の名月は9月になることが多いのです。2021年の場合、秋分日は9月23日、直前の朔の日は9月7日ですので、15日目(14日後)の9月21日が中秋となります。

十五夜：芋名月



中秋の名月(十五夜の月)は、芋をお供えすることから「芋名月」とも呼ばれています。なお、広い意味では十五夜は旧暦八月十五日に限ったことではなく、旧暦の毎月十五日の夜を指す言葉です。

十六夜



十五夜の翌日の月は十六夜(いざよい)と呼ばれます。「いざよう」とは「ためらう」という意味で、前日十五夜の月よりも遅くためらうようにして出てくることからの呼び方です。

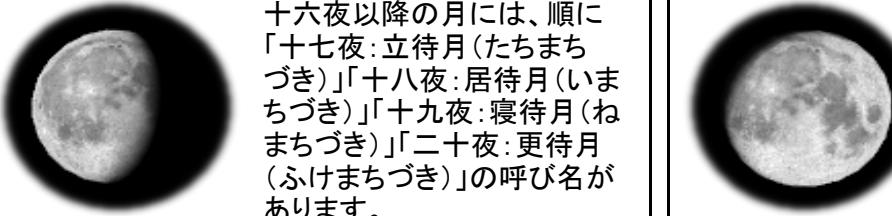
立待月、居待月、寝待月、更待月



十六夜以降の月には、順に「十七夜：立待月(たちまちづき)」「十八夜：居待月(いまちづき)」「十九夜：寝待月(ねまちづき)」「二十夜：更待月(ふけまちづき)」の呼び名があります。

立待月は「立って待っていると出てくる月」という意味で、その後「座って」「寝て」「さらに夜が更けて」となります。

十三夜：後の月、豆名月、栗名月



十五夜から約1か月後となる旧暦九月十三日の月は「十三夜」「後の月」と呼ばれており、この日にもお月見をする習慣があります(十五夜と同様、毎月十三日の夜が十三夜ですが、とにかく九月十三日を指すことが多いです)。2021年は10月18日です。

豆や栗をお供えすることから「豆名月」「栗名月」とも呼ばれます。